

【選択】日々の教育実践を深めるための視座

- ◆期日 平成29年8月9日(水)～8月11日(金・祝) 9:00～17:00(予定)
- ◆時間数 18時間
- ◆主な対象 小学校教諭
- ◆定員 50名
- ◆会場 たまプラーザキャンパス
- ◆応募期間(仮申込) 平成29年4月17日(月)10:00～同4月18日(火)23:59
- ◆受講料 2万円
- ◆講習内容

様々な課題を抱える現代の学校において、日々の実践を深めていくための小学校の各教科の指導のあり方や特別活動および学級経営のあり方等について、具体的・実践的に講義および実技を行う。今年度は特に、新たに教科として加えられることになった道徳や外国語活動のあり方についても検討していく。

◆担当講師

- 長田 恵理 國學院大學人間開発学部准教授
- 杉田 洋 國學院大學人間開発学部教授
- 高山 真琴 國學院大學人間開発学部教授
- 田沼 茂紀 國學院大學人間開発学部教授
- 寺本 貴啓 國學院大學人間開発学部准教授
- 成田 信子 國學院大學人間開発学部教授

◆シラバス

講義名	教科としての指導—小学校外国語科への準備
担当講師	長田 恵理
講義概要	現在5,6年生が行っている外国語活動は2020年より外国語科になる予定である。新しい指導要領の目標に合うような授業を展開するために教師側はどのような準備していけばよいのだろうか。本講座では、言語習得理論や指導法を概観し、具体的にどのように単元計画を立て、指導案を書くにあたってはどのような活動を組みこめばよいのか、さらには、それらを遂行するためには教師がどのような英語力をつければよいかについて考えながら実際に活動を体験し、知識と実践力をつけることを目的とする。
評価方法	成績は、筆記試験の成績(50%)と講座での積極的な参画(50%)を総合的に判断して評価する。

講義名	新学習指導要領における特別活動の理論と方法
担当講師	杉田 洋
講義概要	新しい小学校学習指導要領特別活動編が告示され平成30年度より移行措置がとられることを踏まえ、目標や内容、内容の取り扱いなど改訂の要点について解説する。また、今般の改定で特に重視されることになった学級経営との関わり、自治的な話し合い活動の充実、キャリア教育との関わり、道徳教育との関連などについても解説する。さらには、TOKKATSUが海外から高い関心が示されていることを踏まえ、日本式人間教育としての役割について改めて確認する。

評価方法	講義の終わりに講義内容に沿ったレポートを書いていただきます。
------	--------------------------------

講義名	音楽を学ぶ・音楽で学ぶ
担当講師	高山 真琴
講義概要	<p>現行の学習指導要領から、表現及び鑑賞の活動を通して児童が理解すべき具体的項目が、「共通事項」として提示されています。共通事項の各項目を指導のポイントとすることで、より焦点化した授業実践が行い易くなりました。</p> <p>本講義では、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の活動、および、本時の活動に入る前に行いたい常時活動等を実際に体験し、教科・音楽だからこそ育むことができる児童の資質、及び能力について、また、音楽科の存在意義についてご一緒に考えていきたいと思ひます。</p> <p>講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 常時活動 2. 打楽器アンサンブルを作ろう (器楽&音楽づくりの試み) 3. 能動的鑑賞法 (共通事項で焦点化) 4. ハーモナイズの楽しみ (よく聴き、よく歌う) <p>本講義を通しての教科・音楽への理解が、先生方の教育活動に反映されることを心から願っています。</p> <p>服装について：身体表現活動も行いますので、動きやすい服装でおいで下さい。</p>
評価方法	記述式の試験を行い評価します。

講義名	道徳教育の理論と実践：「特別の教科 道徳」の意義理解と具体的実践
担当講師	田沼 茂紀
講義概要	<p>本講習では平成30年4月より全面実施されることになった小学校「特別の教科 道徳」＝道徳科の全貌について概観し、その実施に向けた諸課題への理解を深めながら、実践的な視点からどう道徳科授業づくりに取り組めばよいのかを演習的に考察していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①道徳教育を巡る諸課題について (現代の子供たち、道徳教育忌避感情、道徳教育軽視傾向) ②学校における道徳科の役割 (道徳の意義と目的、道徳の内容、道徳の指導方法) ③道徳科の特質を生かした授業づくりの方法 (指導計画、主題構成、教材、指導方法、評価、カリキュラム・マネジメントの進め方) <p>また、近年の学校現場で注目されているアクティブ・ラーニングによる道徳科授業づくりのポイントについても言及していく。その際、具体的に道徳科授業がイメージできるよう、ワークショップ形式で展開していく予定である。</p>
評価方法	<p>本講義の評価については、①受講者が学びを通してどのような道徳科への自己課題を発見することができたか、②今後の道徳科授業実践に向けてどのような知見を得ることができたのか、この2点を論述試験として実施する。</p> <p>なお、論述試験は本講義の最後に時間を設定して行う。</p>

講義名	次期学習指導要領が求める理科
-----	----------------

担当講師	寺本 貴啓
講義概要	<p>次期学習指導要領は、「資質・能力」「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」など、たくさんの新しい言葉が使われています。では、理科はどのように変わるか概説します。</p> <p>また、全国学力・学習状況調査においても、理科で求められる課題がいくつか明らかになっています。そこで、これからの授業で教師が何に留意して指導して行く必要があるのかについても解説し、体験も含め理解を深めていきます。</p> <p>【実施予定内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「資質・能力」「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」と理科 2. 次期学習指導要領の理科 3. 現在の理科の課題の具体 4. 実習
評価方法	講義内容について、確認するテストを行う。

講義名	子どもの学びを引き出す国語科教材研究と授業づくり
担当講師	成田 信子
講義概要	<p>国語科の授業づくりは、子どもの学びを中心においた教師の立案によって支えられています。子どもの学びとは、子どもの実態、子どもに付けたい力、学びに向かう姿勢などを包含しています。これら子どもの学びと教材をつないで考えるのが教材研究です。教材のもつ力を最大限に引き出すには、まず教師が一読者として、あるいは言葉の学び手としていかに教材に向き合うかが重要です。授業場面においては教師は非常に複雑な情報処理を行っていると言われていています。つまり、学習者である子ども、教材、指導者あるいは支援者としての教師自身の働きかけ（発問や助言、板書、個別指導等）に関する情報を整理しながら、次の教授行動の意志決定をしているわけです。子どもたちが学びの充実を得られる授業づくりには、教師の教材のとらえと子どもの反応予測、そして授業の振り返りというサイクルが必要です。</p> <p>本講義では、実際の文学教材、説明文教材について、教材研究を行い、授業のねらいや流れ、主発問等を導いていきます。どのような言語活動を想定することが、教材を生かし、子どもに付けたい力を明示することになるのかを考えていきましょう。講義のなかにグループワークを取り入れ、相互交流的な学びの手法によって授業づくりを行います。発表と振り返りすなわちリフレクションまでを想定しています。</p>
評価方法	① 講義内容についての振り返りテスト、② グループワークの参加・学びの記述